



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

うるわし通信

令和2年9月

広がり続けるコロナウイルス対策への取り組み

【感染拡大の現状】

昨年末から感染拡大が言われた新型コロナウイルスは、8月末現在で世界の感染者総数は2500万人を突破し、死者は85万人になろうとしている。(右表参照)

中国から欧州、そして現在は南北アメリカ、インドでの拡大が止まらない状況となっている。

我国では、現在第2波の感染拡大の状況になっていると思われる。これまでに約7万人の感染者が確認され、1300人強の方々が亡くなっている。桜井においても、桜井市役所ホームページによれば、これまで14名の方の感染が確認され、都市部を中心とした感染拡大だけではない状況となってきている。

【コロナ差別の克服を！！】

コロナウイルスへの抜本的対策が未確立の中で、感染に対する「恐怖心」から感染者へのバッシングやコロナ差別というべき状況が、さまざまな場面で発生してきている。かつてのハンセン病に対する認識不足と「強制隔離政策」によるハンセン病患者への差別行為と同じような事態が引き起こされてはならない。

天理大学のラグビー部でのクラスター発生に伴って、天理大学生の教育実習を拒否したり、学生アルバイトの中止が通告される事態が起こっているが、これらもウイルス対策をしっかりすれば予防が可能であるにもかかわらず、感染者でない人々をも排除することをおこなっている。文部科学省は、教育実習がなくても教員免許取得できる特例を、全国の教育委員会に通知した。

【現場でのコロナウイルス対応を知る】

感染予防の抜本対策としてのワクチンの開発が進み、予防接種が行われる迄は、「3密」を避けながらの日常生活にならざるを得ないが、職務内容からは「3密」を回避できないところも多数存在するのが現状である。

今回、桜井市内の保育現場と医療現場で、①この間のコロナ対応 ②「3密」への現場での対策 ③コロナ問題を通じて見えてきた課題を中心に、感染対策に尽力されている状況を紹介したい。

(編集部)

新型コロナウイルス感染者が多い国・地域

※日本時間30日現在。米ジョンズ・ホプキンス大の集計から

	感染者	死者
世界	2500万9739人	84万2709人
米国	596万1581	18万2779
ブラジル	384万6153	12万262
インド	354万2733	6万3498
ロシア	98万2573	1万6977
ペルー	63万9435	2万8607
南アフリカ	62万2551	1万3981
コロンビア	59万9884	1万9063
メキシコ	59万1712	6万3819
スペイン	43万9286	2万9011

保育所での新型コロナウイルス対策の現状

今回、桜井市立第1保育所の榑崎所長に、その取組みの現状についてお話を伺った（8月中旬）。市内には市立保育所が4ヶ所、私立保育所が3ヶ所、その他に小規模認可保育所が運営されており、第1保育所の園児数は0歳児から5歳児まで171名（8月1日現在）が通園している。

全国の小・中・高校・特別支援学校の一斉休校要請が3月2日に突然おこなわれたが、保育所は就労支援の視点から保育業務はウイルス対策を徹底しながら、保育がおこなわれた。そして卒園式は、3密にならないように配慮しながら実施された。



真岡市コロナ対策・啓発用イメージキャラクター

【緊急事態宣言を受けての保育所運営】

「緊急事態宣言」が4月7日に行われ、16日から全国に拡大された（5月25日解除）中で、第1保育所でも4月21日から5月30日迄は「自粛期間」となり、保護者はリモートワークや、祖父母の協力など家庭での保育に協力を得ながら、医療関係従事者世帯やどうしても家庭保育で対応できない世帯を受け入れ、登所園児は3分の1程度になり対応したとのことであった。現在はほぼ通常の保育運営で対応がされている。

【3密を避けることが困難な保育現場での取組み】

保育所での抱っこやスキンシップなどは、子ども達の心身の成長を育む大切な要素であるので、それと相反する3密での感染回避を徹底するウイルス対策は、可能な限りの対応をされている。

朝・昼・降所後の3回にわたる保育室等保育所内の消毒作業、子ども達への手洗い・うがい・検温の徹底や保育室の換気、手洗いの時には距離を取って並ぶことの励行、給食時や昼寝時の子ども達の並び方の工夫は勿論、保育士・職員の感染予防策や保護者の日常生活でのコロナ対策等々、さまざまな対応をされている。

しかし、これで大丈夫ということはないので、不安は避けられないと話されていた。子ども達の成長の確認の場であるさまざまな行事活動も、第1保育所では現在、園外保育・プール等は中止しているが、子ども達が楽しみにしている運動会は年齢別の開催などを検討しているとのことであった。

【コロナ問題を通じて感じた事柄】

榑崎所長は、「コロナ問題は新しい事態として対応が求められるが、日頃の保護者との今まで通りの対応の延長で対処していきたい」と話された。保育所には各クラス担任保育士をはじめ、家庭支援推進保育士や看護師も配置されて、きめ細かな園児や保護者との関係づくりが日常的におこなわれ、親の仕事や日常の相談など相互のコミュニケーションが保たれていることが、緊急事態に対しても信頼関係が維持されていくことに繋がることとおもわれた。

所長が、「子どもの成長を促す場である毎日の保育や諸活動をコロナの中での新しい生活様式を取り入れながら、いかにして安全に進めていくのか検討を重ねていきたい」と話されたことが印象深かった。

医療現場での新型コロナウイルス対策の取組み

桜井市医師会の会長である菊川政次先生より、医療現場でのコロナウイルスに対する取組みについて、ご意見を伺った。但し、菊川先生より医師会の統一見解ではなく菊川個人の意見であると述べられておりますので、ご承知おきください。

この間のコロナ対応の状況・経過

1. 今年1月15日に国内で初めて新型コロナウイルス陽性者が判明して以来、市内の医療関係者の皆さまは、どのような思いで診療され、新しい感染症に立ち向かわれてこられたのでしょうか。

自分が感染すればもちろんですが、新型コロナウイルス【COVID-19】患者を診察すれば（診察していれば）一定期間休診にしなければいけない可能性が強く、できれば発熱患者は診療所内に入ってほしくない思いです。使命感（立ち向かうという表現）で済まされるほど単純な話ではなく、風評もあって、場合により閉院に追いやられる可能性すら感じています。しかし、使命感はあります、ただし、命がけです。

2. 「非常事態宣言」が出された中で、医療現場での状況はどうでしたでしょうか、特に、県や保健所との状況は、どうだったのでしょうか。（連絡等が充分におこなえたかどうか？）

発熱患者、感冒症状患者は常にCOVID-19の可能性を心配されていたわけで、そんな中PCR検査が不十分であることは非常にもどかしかった。県との連絡会議に参加するようになって、私自身は早期に情報取得が可能となり、情報を医師会員に伝達していましたが、十分な危機感を共有できたかどうかは不明です。また情報量が非常に多く、刻々と変化するため、理解しきれない点が生じてしまう状態でもあります。

3. 緊急対応を求められた下での苦勞頂いていることがら

患者は診療所は安全だと思いきっています、当院では診療時間の最後の30分を発熱外来として4月から揭示していますが、その時間に一般患者が平気で診察に来たり、発熱患者が何の問い合わせもなく普通の時間に入ってきます。当初発熱患者は自宅待機という政府の広報も全く通用していなかったと思います。

3密を避ける上で医療現場での対応策として、どのようなご苦勞をされていますか

予約診療が理想的なのではと思いますが、高齢患者に予約時間を守ってもらうことは結構ハードルは高くまた事務作業が煩雑であり、当院では予約診療を行っていません、その結果密を生じてしまう状態がありえます、クラスター発生の危険を実感しますが、解決策は思いつきません。

コロナ問題を通じて見えてきた医療関係者としての思いや提言 ～第2波・第3波等への対応に向けて

1. 市民に対して 自分が感染源になりうる可能性があることを常に意識してほしい。3密を避けることは当然ですが、大声を出さないことや、正しいマスクの装着、手指消毒を徹底してほしい。情報を隠さないでほしい。

2. 行政機関に対して PCR検査、抗原検査を受けやすくしてほしい。早い受診を促す報道がありますが、軽い風邪症状だけでは医療機関を受診しないような広報をもっと大々的にしてほしい。受診することでうつされる危険も生じてしまうことを認識してほしい。

3. 医療機関に対して 感染対策を工夫して、発熱患者を診てほしい。

その他、特に提起しておきたいことがあれば、お願いします。

正解の対応方法がすぐには判らないこの感染症ですが、専門家には強いリーダーシップを発揮してほしい。種々の意見があると思いますが、その専門家の意見に従ってほしい。

菊川内科医院

住んで良し、訪ねて良しのまちづくりをみんなの力で！

一般社団法人 うるわしの桜井をつくる会は平成23年に発足し、本年は10周年を迎えます。この間会員の皆様方のご協力を得て、多くのテーマに取り組んできました。

奈良県は平成24年に「記紀万葉プロジェクト」を立ち上げました。これに呼応して、「桜井市・桜井市観光協会・うるわしの桜井をつくる会」が中心となって、「桜井 記紀万葉プロジェクト推進協議会」を設立しました。(40団体が参加)

参加団体が一体となって、「万葉歌碑原書展」をあべのハルカス、万葉文化館、桜井市立図書館で開催し、多くの反響を得ました。

奈良県の「記紀万葉プロジェクト」は今年最終年度を迎えます。これを機に奈良県主催の集大成イベントを桜井市で11月29日(日)に開催することになりました。

現時点で桜井市民会館での講演会や、万葉歌碑原書の展示等が予定されています。新型コロナウイルスの感染が広がっている中で、開催が厳しい面もあると思いますが、当会も全面協力し、錦上花を添えられるよう頑張っていきたいと考えています。

お知らせ

●桜井図書館友の会

9月の読書会は、開高 健『裸の王様』です。

打算と偽善と虚栄に満ちた社会で、ほとんど圧殺されかかっている幼い生命の救出を描いた第38回芥川賞受賞作。

開高 健、生誕90年。甦れ反抗期。偽善と虚無に満ちた社会を哄笑する、凄まじいパワーに触れてみませんか。

日 時：9月29日(火)13：30から

場 所：桜井市市民活動交流拠点会議室(エルト桜井2階内)



10月の読書会は、堀田 善衛『広場の孤独』です。

日本の敗戦、朝鮮戦争の勃発。歴史の大きな転換期に生きた日本と中国の知識人たちが、いやおうなく直面する苦悩と決断を描き出す。人々が理念をもてた時代。第26回芥川賞受賞作。

日 時：10月27日(火)13：30から

場 所：桜井市市民活動交流拠点会議室(エルト桜井2階内)

*問い合わせ先 浅川 肇 TEL：090-1961-6345

友の会会員以外の参加も歓迎します。



【編集後記】 新型コロナウイルス問題をテーマにして、各方面からの取組み現状を紹介する特集をおこないました。高齢者施設については、次回に掲載させて頂く予定です。次号11月発行時に、ウイルス禍がどのようなになっているのかは予想がつきません。インフルエンザも危惧されますが、「3密」を避けながらも、人と人とのつながりが遮断されないコミュニティーづくりを進めていきたいものです。(編集子 K)

うるわし通信発行人
高瀬 安男
TEL:090-1678-9157